



【連載 06】加悦鉄道（加悦～丹後山田）開業 100 年

ガタゴト かやてつ 100年号

大正から令和へ - 思い出のレール100年 -

広報よさの8月号（No.246）では、廃線から現在に至るまでと、旧尾藤家住宅での加悦鉄道開業 100 周年特別企画展などについてお伝えしました。今月は、加悦鉄道の車両として活躍した DC351 ディーゼル機関車の今と、10 月に開催予定のイベントについてご紹介します。

図 産業観光課 ☎ 43-9012



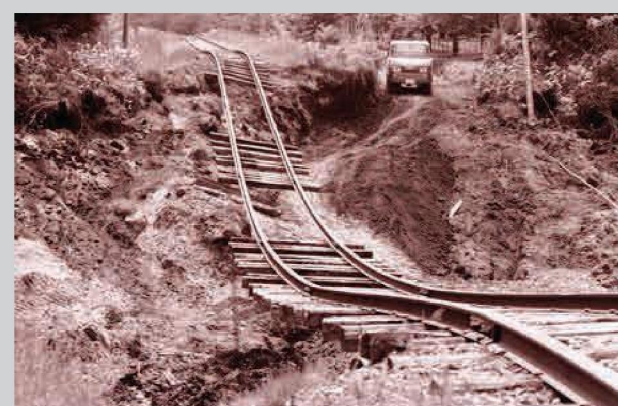
加悦駅に停車する DC351（昭和 45 年 10 月撮影）

貨物輸送を担った DC351

1967（昭和42）年10月、加悦鉄道で蒸気機関車の運行を終了することに伴い、日本冶金工業株式会社は、岩滝線の貨物輸送用として青森県の南部鉄道からディーゼル機関車「DC351」を譲り受けました。同機関車は、1956（昭和31）年に南部鉄道が新製された機関車で、加悦鉄道では岩滝線の貨物輸送を担う主力機関車として、活躍しました。

DC351のふるさと「南部鉄道」

南部鉄道は、1929（昭和4）年に尻内駅（現在の八戸駅）―七崎駅間が開業し、翌年には五戸駅まで延伸して全線が開業した、営業距離約12kmの私鉄です。五戸と八戸を結ぶ地域の足として親しまれました。1968（昭和43）年5月16日に発生した十勝沖地震（マグニチュード7.5）では、線路37カ所が不通となり、一部では築堤が崩壊するなど壊



十勝沖地震で路盤（盛土）が流失した南部鉄道（写真：五戸町提供）

滅的な被害を受けました。その後、復旧することなく、約1年後に廃止となりました。

地震の被害を免れた奇跡の1台

DC351は、北海道十勝沖地震が発生する前年に日本冶金工業株式会社へ譲渡されたため、地震による被害を免れました。加悦鉄道岩滝線で活躍した後は、「加悦SL広場」で展示されてい

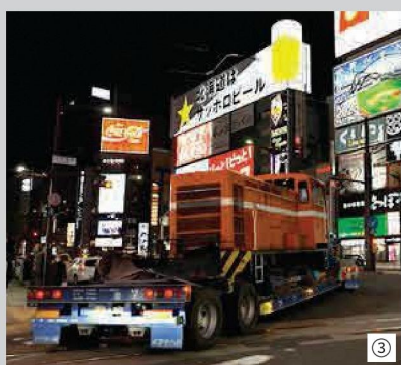
ましたが、閉園後の2022年4月、所有者である宮津海陸運輸株式会社から青森県五戸町へ譲渡されました。現在、地元で南部鉄道の面影を伝えるものは、「五戸駅」の名前のバス停と、ルート沿いに建てられた「南部鉄道 使命を果たす」と刻まれた石碑くらいで、わずかしかなかったかもしれません。

のような中、同機関車の里帰りは、南部鉄道の歴史を今に伝える貴重な機関車として、地元の方々に大変喜ばれました。

DC351はフェリーに乗って

与謝野町から五戸町までは、

フェリーにも乗船した長旅でした。加悦SL広場から舞鶴港までは夜間に陸送され、舞鶴港から小樽港まではフェリー、さらに苫小牧港までは夜間に陸送。その後、苫小牧港から八戸港までは再びフェリーに乗り、五戸町まで陸送されました。現在、DC351は「このへ郷土館」に新設された車庫で大切に保存されています。地元では、「地震を逃れた幸運の車両」として親しまれています。このへ郷土館には、地震発生当時の写真なども展示されており、防災教育の教材としても活用されています。南部鉄道の歴史を伝える車両として、まちぐるみで大事にされており、まさに「幸運の車両」といえるでしょう。



- ① このへ郷土館に展示・保存されている現在の DC351
 - ② 加悦 SL 広場から運び出される DC351
 - ③ 夜の札幌市内を陸送される DC351
 - ④ このへ郷土館の敷地内に下ろされる DC351
- ※ 写真：すべて五戸町提供

来月号

今月号は、DC351 ディーゼル機関車の現況と、10月に開催予定のイベントについてお伝えしました。来月号では、加悦鉄道2号機関車と11月1日に開催予定のイベント『古地図の中のちりめん街道を歩き観る』についてお伝えします。

10/18 日

【お知らせ】 加悦鉄道開業 100周年記念 イベント

秋の恒例イベント「きものでぶらりちりめん街道」は、加悦鉄道開業100年を祝い、加悦鉄道に関する催しも開催予定で、「和太鼓おり姫」による、和太鼓演奏もあります。

- 【会場】 旧加悦鉄道加悦駅舎
- 【内容】 ジオラマ展示、昔の駅員体験など
- 【その他】 同駅舎に入館された方には、オリジナルふせんをプレゼント（先着順）